



二海橋春眺

しりしり春の風、花の匂い、舟の音の  
で、ゆるやかに、長刀鬼灯を照く  
小舟、ささやかに、置け、強投りぬ  
五二の山、斜に、傾く、夕暮、暁

土砂も、春風に、吹散り、けり  
馬車の、往來の、おぼろげに、向ふ  
又、えの、東の、夕暮、花見多し  
袖を、ほろ、ほろ、涙、よそよそし

見、九十八間、の  
公橋、の、西、岸、よ  
杉、の、首、尾、の、松、は  
柱、の、ま、ま、り  
春、の、あ、め、と  
あ、て、か

折道橋房  
あま





二、お橋春眺

ひのけの橋。絶景とて、佇む人の  
まはれもさういふ長刀鬼灯を置く  
小高人さういふ置に張投あぬ

右二の山は斜に傾く日影の暁

士族もさういふ民のけし

馬車の往來のあはれに向ふ

見えぬ東の夕方花見の合  
袖をゆるゆる揺るまをもち

くし、揺る新街の  
九軒と聞く

見、九十八間の

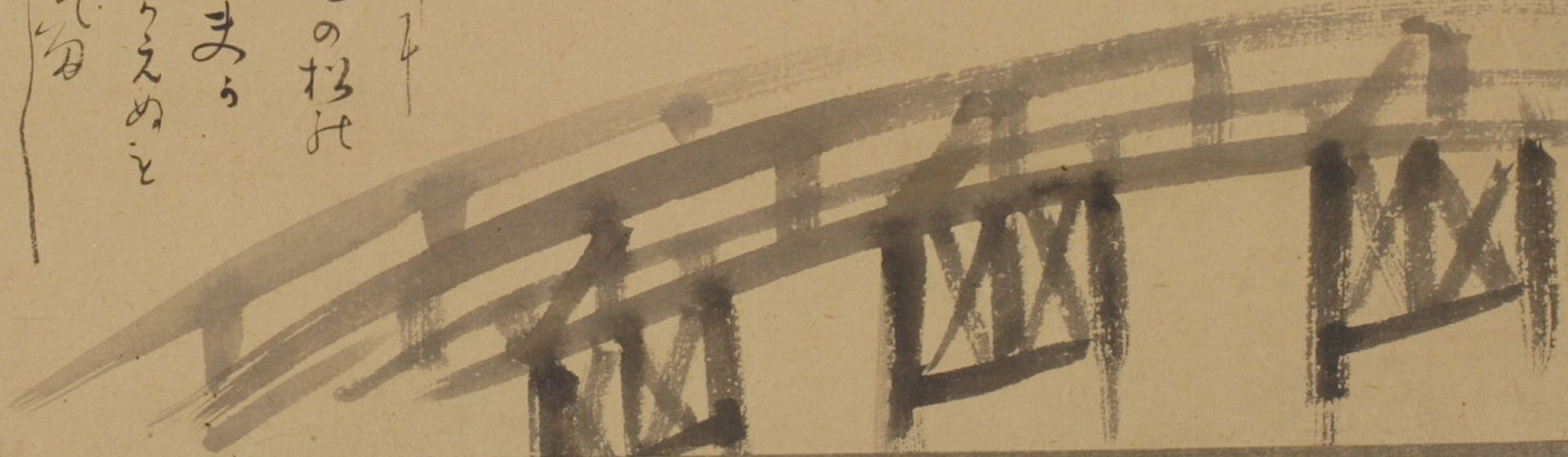
名物の西岸に

杉とぬ首尾の松は

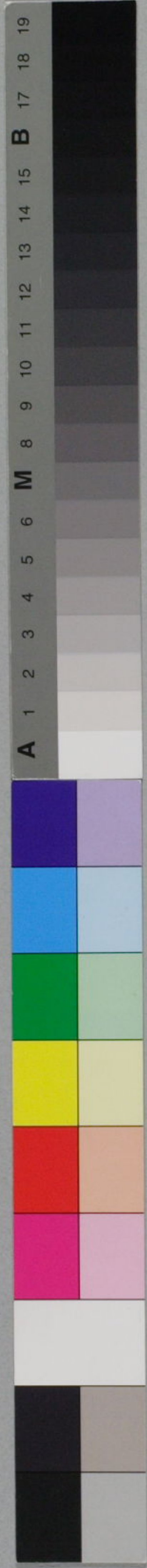
位乃をまら

標をくえぬと  
免て分

柳亭種彦の筆







特別  
文庫14  
B62

程子  
兩子  
橋自  
函溪  
三代目





高田藍泉(三代目柳亭種彦)筆兩國橋画讚

わが著明治文學史所収  
(新訂版上巻)

本間久雄

